

②県内 医療機関向け

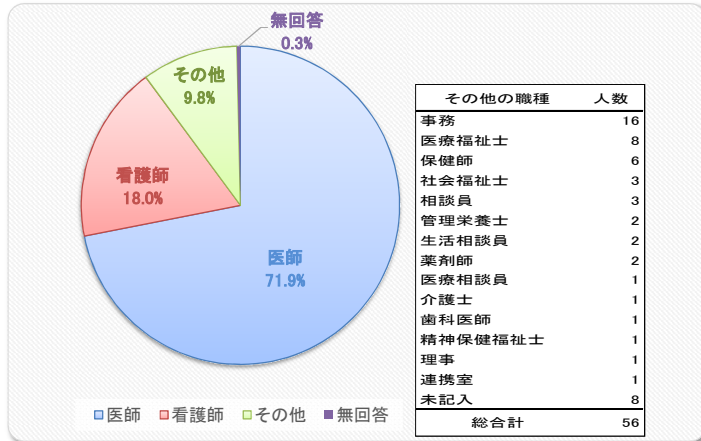
H27年度

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

1)医療機関名 省略

2)職種

71.9%が「医師」、18.0%が「看護師」、9.8%が「その他」となっている。



	サンプル数
対象	567
医療機関	567
合計	567

医師	看護師	その他	無回答	項目合計
71.9%	18.0%	9.8%	0.3%	100.0%
412	103	56	2	573
412	103	56	2	573

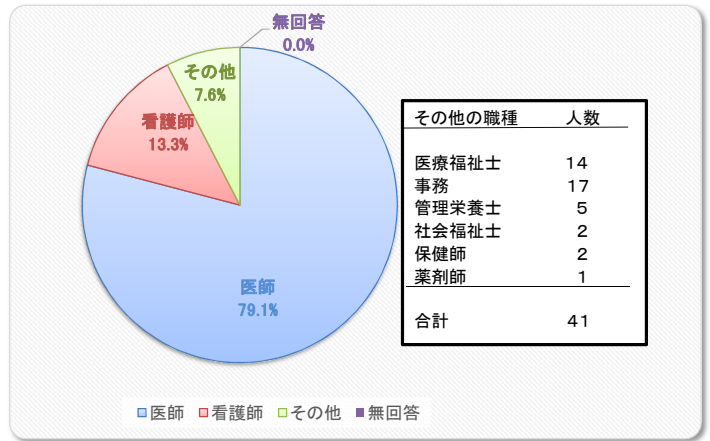
H30年度

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

1)医療機関名 省略

2)職種

- ・医師が79.1%で最も多い。
- ・前回と比較して医師が増加し、看護師が減少している。



	サンプル数
対象	607
医療機関	607
合計	607

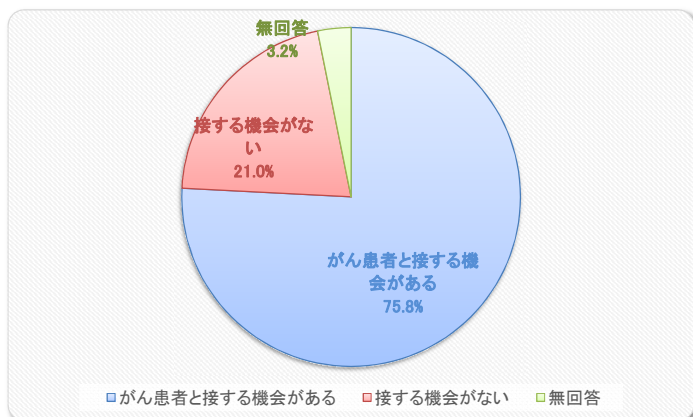
医師	看護師	その他	無回答	項目合計
79.1%	13.3%	7.6%	0.0%	100.0%
480	81	46	0	607
480	81	46	0	607

H27年度

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

3)業務内容

75.8%が「ある」、21.0%が「ない」となっている。



	サンプル数
対象	567
医療機関	567
合計	567

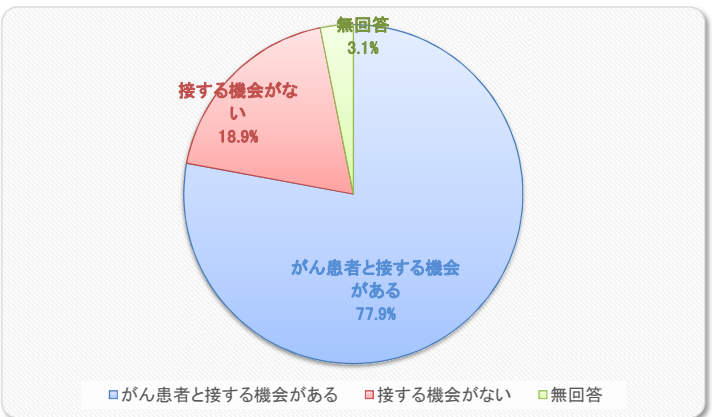
がん患者と接する機会がある	接する機会がない	無回答
75.8%	21.0%	3.2%
430	119	18
430	119	18

H30年度

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

3)業務内容

- ・回答者のほとんどががん患者と接する機会がある。
- ・前回と比較して増加している。



	サンプル数
対象	607
医療機関	607
合計	607

がん患者と接する機会がある	接する機会がない	無回答
77.9%	18.9%	3.1%
473	115	19
473	115	19

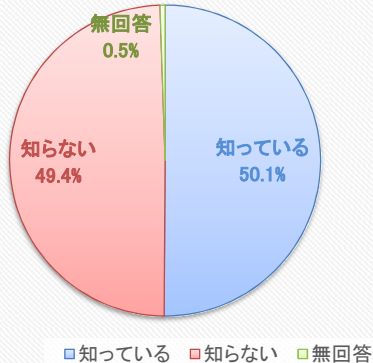
②県内 医療機関向

H27年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

1)がん相談支援センターを知っていますか

50.1%が「知っている」、49.4%が「知らない」となっている。



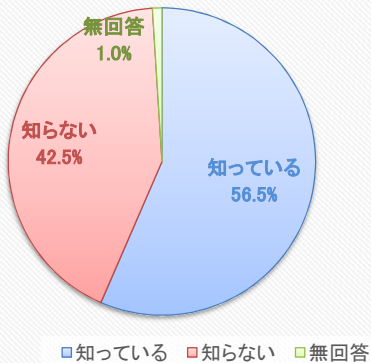
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対象	567	50.1%	49.4%	0.5%
医療機関	567	284	280	3
合計	567	284	280	3

H30年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

1)がん相談支援センターを知っていますか

- ・がん相談支援センターを「知っている」が56.5%であり、「知らない」を上回った。
- ・前回と比較すると「知っている」は6.4%増加している。



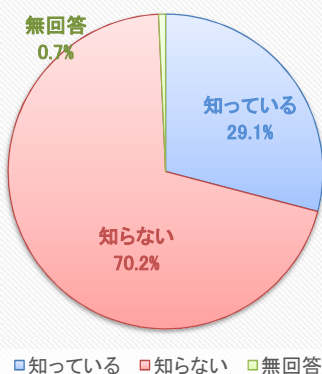
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対象	607	56.5%	42.5%	1.0%
医療機関	607	343	258	6
合計	607	343	258	6

H27年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

2)がん相談支援センターの業務を知っていますか

29.1%が「知っている」、70.2%が「知らない」となっている。



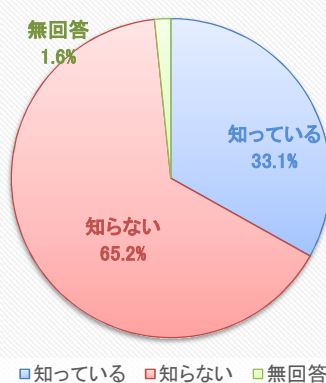
	サンプル数	知っている	知らない	無回答	項目合計
対象	567	29.1%	70.2%	0.7%	100.0%
医療機関	567	165	398	4	
合計	567	165	398	4	567

H30年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

2)がん相談支援センターの業務を知っていますか

- ・がん相談支援センターの業務を「知っている」のは33.1%にとどまり、「知らない」を大きく下回った。
- ・前回と比較すると「知っている」は4%増加している。



	サンプル数	知っている	知らない	無回答	項目合計
対象	607	33.1%	65.2%	1.8%	100.1%
医療機関	607	201	396	10	607
合計	607	201	396	10	607

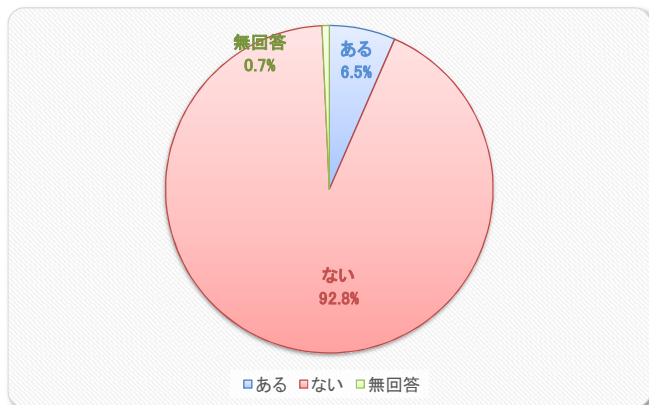
②県内 医療機関向

H27年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

3)がん相談支援センターと連携して、患者対応を行ったことがありますか

6.5%が「ある」、92.8%が「ない」となっている。



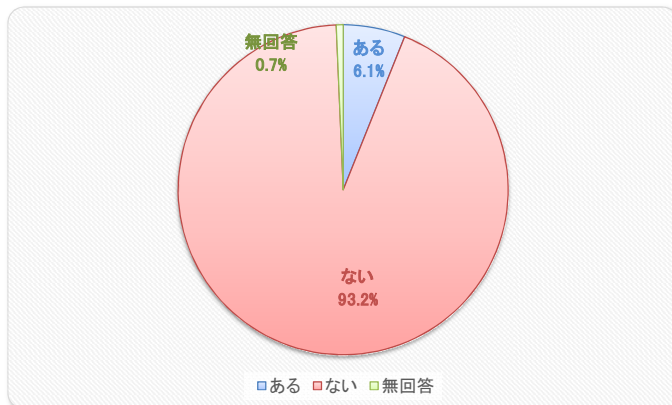
	サンプル数	ある	ない	無回答	項目合計
対象	567	6.5%	92.8%	0.7%	100.0%
医療機関	567	37	526	4	567
合計	567	37	526	4	567

H30年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

3)がん相談支援センターと連携して、患者対応を行ったことがありますか

- ・がん相談支援センターと連携して患者対応を行ったことが「ある」のは6.1%と低い。
- ・前回と比較しても増加はみられない。



	サンプル数	ある	ない	無回答	項目合計
対象	607	6.1%	93.2%	0.7%	100.0%
医療機関	607	37	566	4	607
合計	607	37	566	4	607

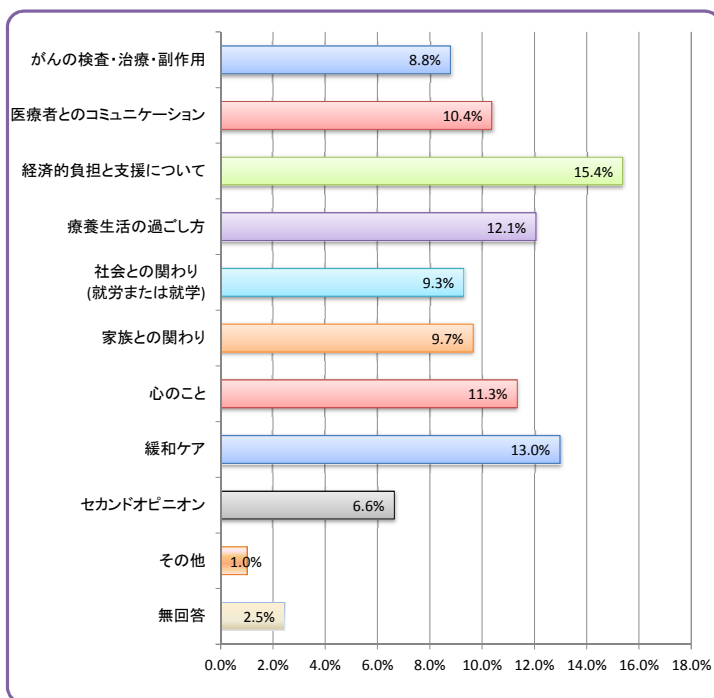
②県内 医療機関向け

H27年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

4)以下の業務のうち、相談支援センターに力を入れてほしい項目にレをつけて下さい(複数回答)

15.4%が「経済的負担と支援について」、13.0%が「緩和ケア」、12.1%が「療養生活の過ごし方」となっている。



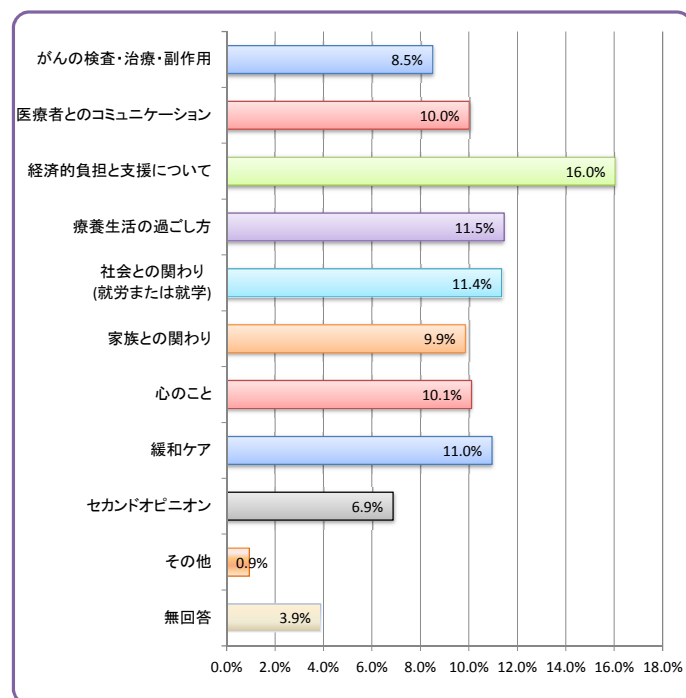
- 在宅医療について。選択肢としての提示。在宅スタッフとの連携。
- 紹介先の医療機関との連携、コミュニケーション。
- 緩和ケア病棟や一般病院との連携
- がん相談支援センターの「存在」と「業務内容」を広く広報してほしい。
- 患者に考える時間を与えられる信頼関係。意思決定支援。
- 介護保険などの紹介。
- 臨床宗教師などスピリチュアルケアの相談。
- アピアランスケア。
- トータルで
- 地域の相談・社会問題への団体(NPOなど)の把握・連携

H30年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

4)以下の業務のうち、相談支援センターに力を入れてほしい項目にレをつけて下さい(複数回答)

・「経済的負担と支援について」、「療養生活の過ごし方」、「社会との関わり」が上位の意見となっている。
・前回と比較すると「社会との関わり」が増加している。



- 在宅医療について。在宅生活時の相談が気軽に行える体制。
- 拠点病院以外の患者への対応とその患者に対する周知。都市部から遠い患者への支援。
- 緩和への橋渡し。緩和に対する認識の変革。
- 食事内容の指導
- 終末期について
- 丸山ワクチン
- 共同研究発表、事例報告等
- 小児がんCCSのフォロー
- 要支援者を有している家族とがん患者への支援
- 民間療法の正しい知識について
- 難病支援センターのような包括的支援

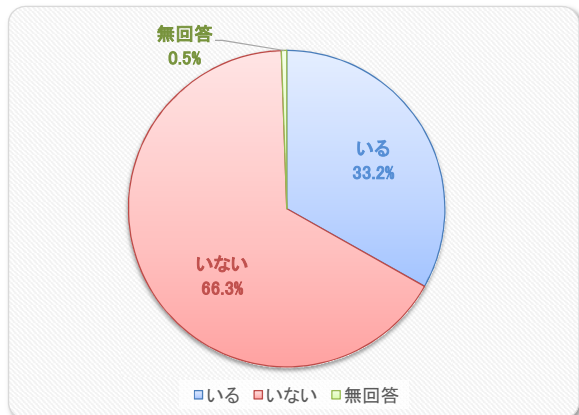
②県内 医療機関向

H27年度

Q3.「がん相談」についてお伺いします。

1) 貴医療機関にがんに関する相談を受けることができる医療従事者等はいいますか

33.2%が「いる」、66.3%が「いない」となっている。



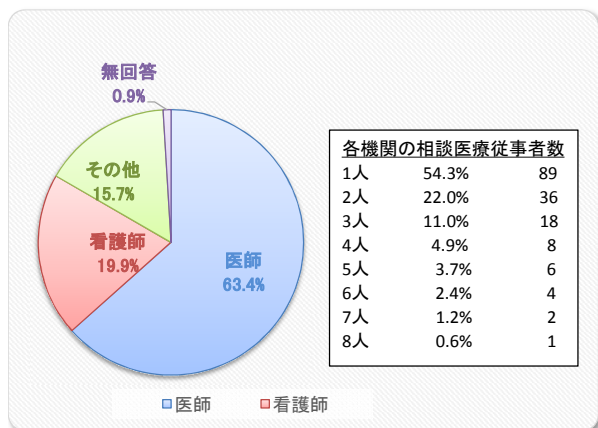
	サンプル数	いる	いない	無回答
対象	567	33.2%	66.3%	0.5%
医療機関	567	188	376	3
合計	567	188	376	3

H27年度

Q3.「がん相談」についてお伺いします。

※「いる」と答えた方のうち、がん相談を受けている方の職種

・63.4%が「医師」、19.9%が「看護師」、15.7%がその他になっている。



	サンプル数	医師	看護師	その他	無回答	項目合計
対象	188	63.4%	19.9%	15.7%	0.9%	100.0%
医療機関	188	137	43	34	2	216
合計	188	137	43	34	2	216

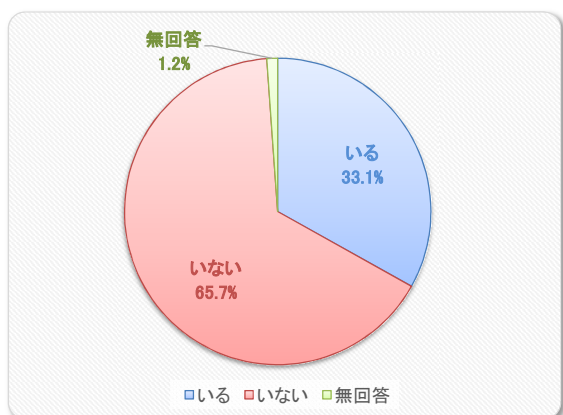
(従事者が複数名のための複数回答あり)

H30年度

Q3.「がん相談」についてお伺いします。

1) 貴医療機関にがんに関する相談を受けることができる医療従事者等はいいますか

・がん相談を受ける医療者がいるのは33.1%で、前回とほぼ変わらない。



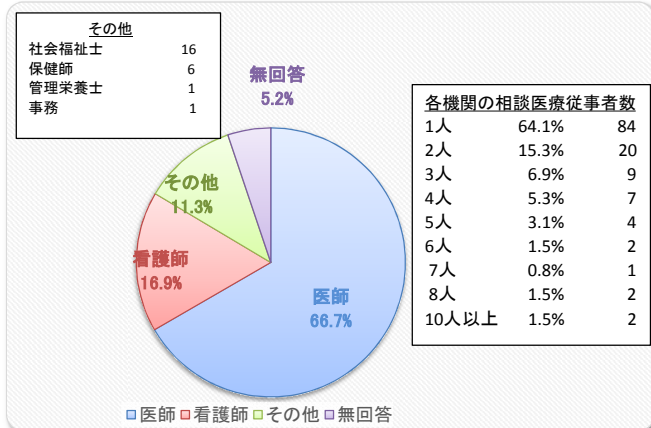
	サンプル数	いる	いない	無回答
対象	607	33.1%	65.7%	1.2%
医療機関	607	201	399	7
合計	607	201	399	7

H30年度

Q3.「がん相談」についてお伺いします。

※「いる」と答えた方のうち、がん相談を受けている方の職種

・相談を受けているのは66.7%が医師で最も多く、看護師がそれに続く。
 ・その他の職種の中で社会福祉士が最も多い。
 ・前回と比較して医師が増加し、看護師は減少している。
 ・相談を受けている医療従事者の人数は1人が最も多い。



	サンプル数	医師	看護師	その他	無回答	項目合計
対象	201	66.7%	16.9%	11.3%	5.2%	100.0%
医療機関	201	154	39	26	12	231
合計	201	154	39	26	12	231

(従事者が複数名のための複数回答あり)

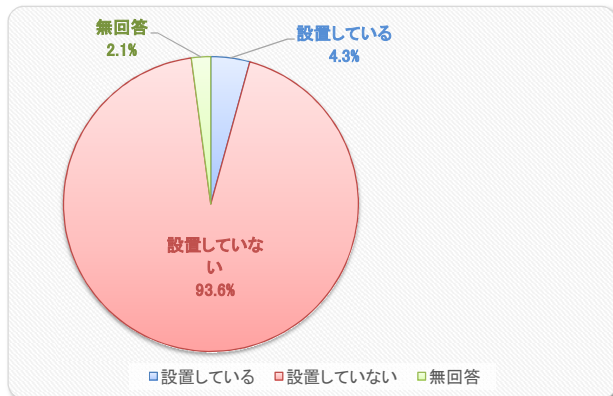
②県内 医療機関向

H27年度

Q3.「がん相談」についてお伺いします。

2)「いる」と回答された方にお伺いします、
がんに関する相談窓口を設置していますか

4.3%が「設置している」、93.6%が「設置していない」となっている。



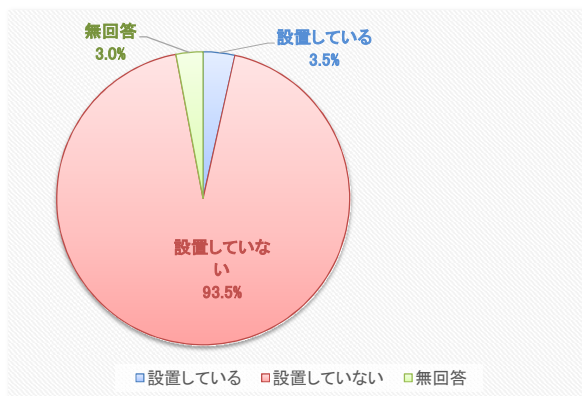
	サンプル数	設置している	設置していない	無回答	項目合計
対象	188	4.3%	93.6%	2.1%	100.0%
医療機関	188	8	176	4	1
合計	188	8	176	4	188

H30年度

Q3.「がん相談」についてお伺いします。

2)「いる」と回答された方にお伺いします、
がんに関する相談窓口を設置していますか

・相談を受けることができる医療従事者がいるが、そのほとんどの施設は相談窓口を設置していない。



	サンプル数	設置している	設置していない	無回答	項目合計
対象	201	3.5%	93.5%	3.0%	100.0%
医療機関	201	7	188	6	201
合計	201	7	188	6	201

H27年度

Q3-3.「がん相談」についてお伺いします。

「設置している」と回答された方にお伺いします
相談を受けた時に困ったことがあれば記入ください(自由記載)

- がん治療を実施している先生が、日常生活や食事といった自分で出来ることへふみ込んでもらおうと患者さんも不安がとれると思
- 低所得の方の経済的負担と支援
- 本人への告知について、家族は病名を知っているが、本人には伏せてある場合
- 丸投げに近い形で、突然相談にこられた時。紹介側の認識と本人、家族の気持ちのズレがある時。
- 予後、余命の告知がまだ十分に行われていない。
- 良い医療機関を紹介してほしいと言われた時、専門でない癌の場合などはどこが良いかわからない事が多い

H30年度

Q3-3.「がん相談」についてお伺いします。

「設置している」と回答された方にお伺いします
相談を受けた時に困ったことがあれば記入ください(自由記載)

- 予後告知しホスピス病棟に入院するタイミング
- がん専門医が食事に関することに興味を持っていないこと
- 県内で実績が少ない治療に関しての相談。丸山ワクチン等、テレビ放送後多くの相談をうける。
- 経済的負担の問題
- 他院で医療トラブルを起こした人から相談を受けた。
- 内容が漠然としていて介入出来ない内容の時
- 他病院で病名や予後の説明もなく転院してきた患者

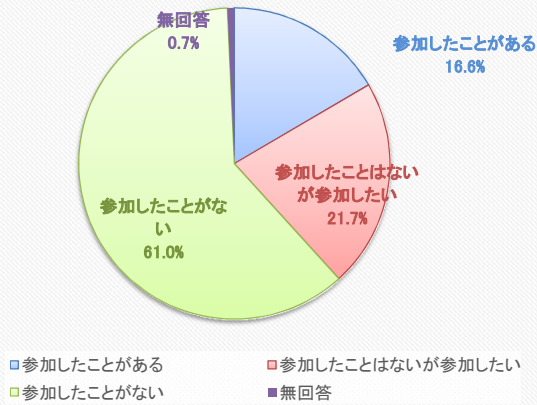
②県内 医療機関向け

H27年度

Q4.「がん相談に関する研修会」についてお伺いします。

1) 研修会・講演会等に参加したことがありますか

16.6%が「参加したことがある」、21.7%が「参加したことはないが参加したい」、61.0%が「参加したことがない」となっている。



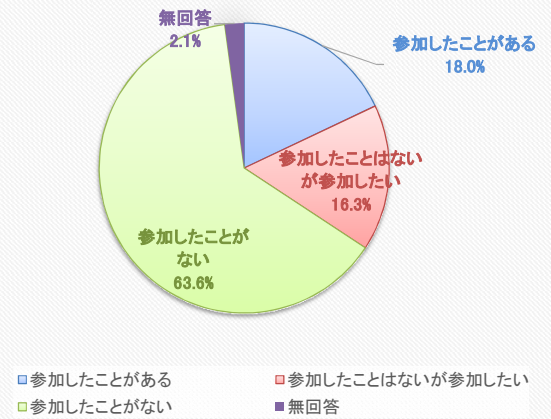
	サンプル数	参加したことがある	参加したことはないが参加したい	参加したことがない	無回答
全 体	567	16.6%	21.7%	61.0%	0.7%
医療機関	567	94	123	346	4
合 計	567	94	123	346	4

H30年度

Q4.「がん相談に関する研修会」についてお伺いします。

1) 研修会・講演会等に参加したことがありますか

- ・がん相談に関する研修会に「参加したことがある」は18%であり、「参加したことはないが参加したい」も合わせた「参加したことがない」の79.9%に対して少ない。
- ・前回と比較すると「参加したことがある」は1.4%の増加である。



	サンプル数	参加したことがある	参加したことはないが参加したい	参加したことがない	無回答
全 体	607	18.0%	16.3%	63.6%	2.1%
医療機関	607	109	99	386	13
合 計	607	109	99	386	13

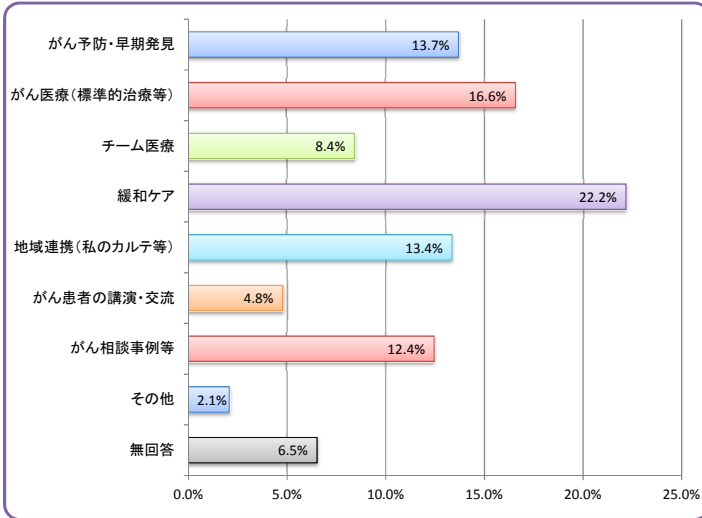
②県内 医療機関向け

H27年度

Q4.「がん相談に関する研修会」についてお伺いします。

2) 院内外におけるがんに関する研修会等で参加したいと思うテーマはありますか(複数回答)

22.2%が「緩和ケア」、16.6%が「がん医療(標準的治療等)」、13.7%が「がん予防・早期発見」となっている。



	サンプル数	がん予防・早期発見	がん医療(標準的治療等)	チーム医療	緩和ケア	地域連携(私のカルテ等)	がん患者の講演・交流	がん相談事例等	その他	無回答	項目合計
対象	567	13.7%	16.6%	8.4%	22.2%	13.4%	4.8%	12.4%	2.1%	6.5%	100.0%
医療機関	567	166	201	102	269	162	58	151	25	79	1213
合計	567	166	201	102	269	162	58	151	25	79	1213

「その他」のご意見

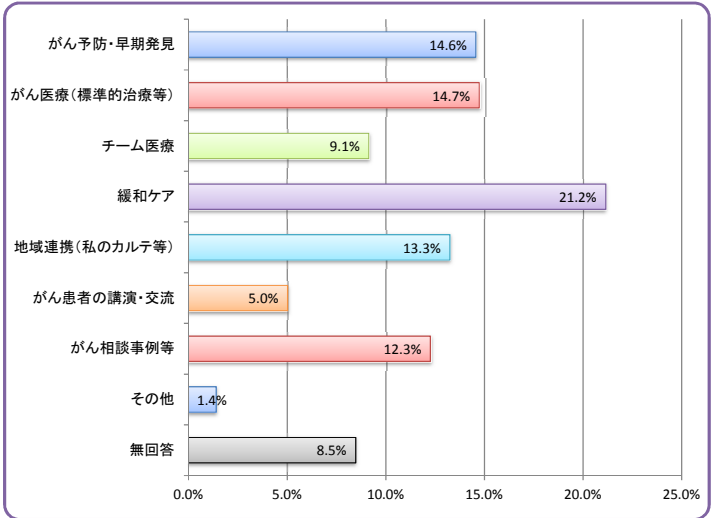
- 免疫療法など標準的治療以外の治療について
- がん患者の家族への対応(子ども、クレーマー的家族)
- 高齢のがん患者に関すること。(認知症のあるがん患者、抗がん剤使用)
- 先端医療～民間療法
- 統合医療
- 患者が自分で出来る内容の指導
- 在宅での看取り
- 尊厳死
- 仕事との両立ために職場は何をすればいいか
- 禁煙推進(受動喫煙防止含む)
- 皮膚悪性腫瘍
- 他病院でがん治療を受けている患者への接し方(どこまで専門外の話をするべきかなど)

H30年度

Q4.「がん相談に関する研修会」についてお伺いします。

2) 院内外におけるがんに関する研修会等で参加したいと思うテーマはありますか(複数回答)

・「緩和ケア」が21.2%で最も多く、「がん医療(標準治療等)」・「がん予防・早期発見」、
「地域連携(私のカルテ等)」が上位の意見となっている。
・前回と比較し上位意見の変化はない。



	サンプル数	がん予防・早期発見	がん医療(標準的治療等)	チーム医療	緩和ケア	地域連携(私のカルテ等)	がん患者の講演・交流	がん相談事例等	その他	無回答	項目合計
対象	607	14.6%	14.7%	9.1%	21.2%	13.3%	5.0%	12.3%	1.4%	8.5%	100.0%
医療機関	607	177	179	111	257	161	61	149	17	103	1215
合計	607	177	179	111	257	161	61	149	17	103	1215

「その他」のご意見

- 終末期の援助。ACP。エンディングノート。
- 経済的支援について
- 介護保険との関係
- 遺族会の開催例
- 日常生活、食事指導
- 最新の各がんの治療戦略
- 先端医療、民間療法
- 統合医療
- 家族支援
- 仕事と治療を両立している医療者向けの研修や交流会
- 就労支援
- 宗教者との関わり(臨床宗教師など)
- 皮膚科で協力できることに関する内容の講演など

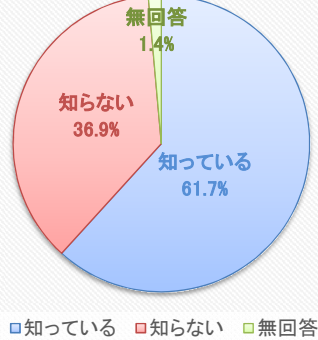
②県内 医療機関向け

H27年度

Q5.「がんサロン又はがん患者会の交流等」についてお伺いします。

1)がん患者等の交流を目的とした「がんサロン」があることを知っていますか

61.7%が「知っている」、36.9%が「知らない」となっている。



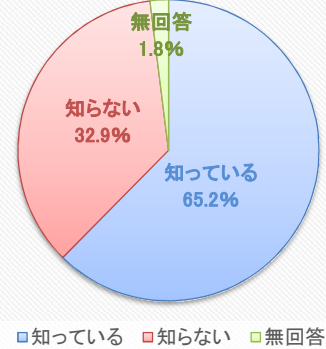
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対象	567	61.7%	36.9%	1.4%
医療機関	567	350	209	8
合計	567	350	209	8

H30年度

Q5.「がんサロン又はがん患者会の交流等」についてお伺いします。

1)がん患者等の交流を目的とした「がんサロン」があることを知っていますか

・がんサロンを「知っている」65.2%と「知らない」32.9%を上回っている。
・前回と比較して「知っている」は3.5%増加している。



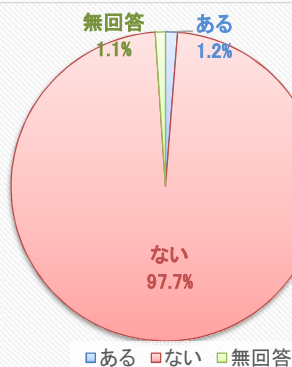
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対象	607	65.2%	32.9%	1.8%
医療機関	607	396	200	11
合計	607	350	200	11

H27年度

Q5.「がんサロン又はがん患者会の交流等」についてお伺いします。

2)貴医療機関で開催されているがんサロン、がん患者会等がありますか

1.2%が「ある」、97.7%が「ない」となっている。



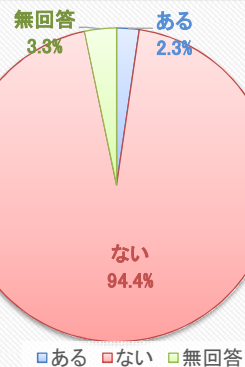
	サンプル数	ある	ない	無回答
対象	567	1.2%	97.7%	1.1%
医療機関	567	7	554	6
合計	567	7	554	6

H30年度

Q5.「がんサロン又はがん患者会の交流等」についてお伺いします。

2)貴医療機関で開催されているがんサロン、がん患者会等がありますか

・がんサロンが「ある」は2.3%と低く、ほとんどの施設にがんサロンがない。
・前回と比較しても変化はない。



	サンプル数	ある	ない	無回答
対象	607	2.3%	94.4%	3.3%
医療機関	607	14	573	20
合計	607	14	573	20

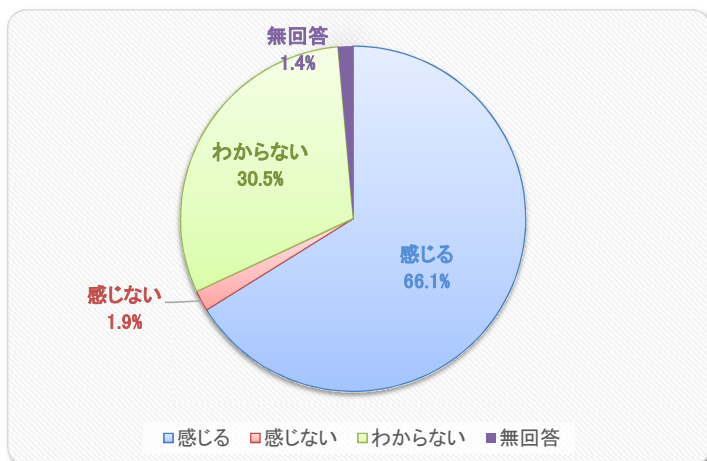
②県内 医療機関向け

H27年度

Q5.「がんサロン又はがん患者会の交流等」についてお伺いします。

3)がん患者のピアサポート(がん患者同士の支え合い)の必要性を感じますか

66.1%が「感じる」、1.9%が「感じない」、30.5%が「わからない」となっている。



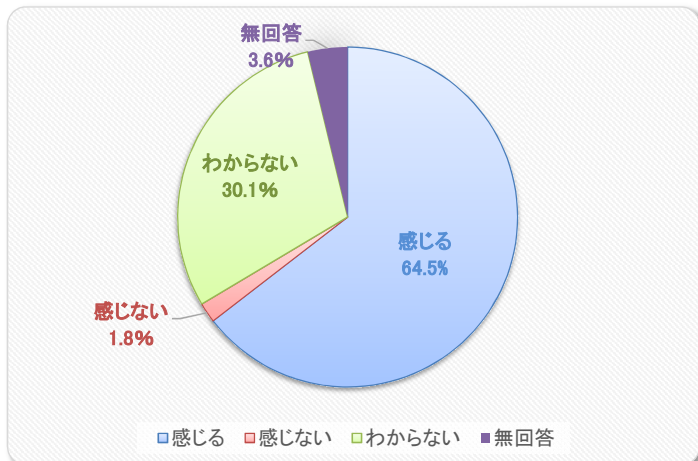
	サンプル数	感じる	感じない	わからない	無回答
対象	567	66.1%	1.9%	30.5%	1.4%
医療機関	567	375	11	173	8
合計	567	375	11	173	8

H30年度

Q5.「がんサロン又はがん患者会の交流等」についてお伺いします。

3)がん患者のピアサポート(がん患者同士の支え合い)の必要性を感じますか

・がん患者のピアサポートの必要性を「感じる」64.5%は、「感じない」1.8%と比べて大きく上回っている。



	サンプル数	感じる	感じない	わからない	無回答
対象	607	64.5%	1.8%	30.1%	3.6%
医療機関	607	391	11	183	22
合計	607	375	11	173	22

Q6.がん相談に関して課題・不満等を感じていることはありますか(自由記載より抜粋)

- がん相談支援センター活動内容について周知と相談に行きやすい環境整備
- 拠点病院との情報共有や転院患者の相談が「がん相談窓口」を通じ連携できれば、患者・家族の更なる個別支援が実現できるのではないかと考える。
- 連携がとれていない。患者を介しての情報しか入ってこない場合がある。
- 紹介元の病院から十分な情報が伝えられないことがある。連携のあり方について
- 気軽に相談できる体制をお願いしたい。
- 初回診断時に、相談に応じてくれるところを紹介してくれると助かる。
- 患者・家族と病院(主治医)、紹介先との間にがん相談員が入るとスムーズにいく。
- 休日、夜間に自分の都合で説明を求める家族、また、家族に十分説明を行っていても、自分は説明を聞いていない等、担当看護師が困ることがしばしばある。
終末期の医療のあり方が十分理解されていない。在宅・院内にかかわらず高齢者の看取り受け入れられるように、マスメディア等での報道をくり返す必要がある。
- 看取りを含めた緩和ケアが中心である。本人はもちろん、家族との関わりに難しさを感じる。
- 「悪い知らせ」を本人・家族に伝えるスキルを上げる研修をして欲しい
- 専門職でなくてもがん患者さんの心のケアができるように研修できる機会が欲しい。
- 抗がん剤の副作用が眼に起こる事が知られていない。マスク以外の生活指導が行われていない。ほかの注意点や心のケア、人生観死生観の話し合い指導も必要。
- がん全般(予防、治療、ケア等)についての知識が不足している。
- 本当はやりたいこと、必要と思うことは多いが、我々はこれ以上は無理。
- 専門的に相談を受ける事ができるスタッフがいないのできちんとしたサポートができていない。
- 主治医が対処すべき問題と思う。
- がん患者が少ない病院でもがん相談(看護外来)に対して診療報酬加算がとれるようなシステムを作してほしい
- 急性期と緩和ケア病棟の間での精神的なサポート、がん看護の知識、メンタルケアが課題だと感ずる。がんに関する勉強会等が増えればいい。
- 在宅医療という選択肢があるという事が伝えられているのかわからない。医療者側で決めつけず短期間でも在宅で過ごすできるようになればいい。在宅医を利用して欲しい。
- 訪問看護師を活用してほしい。早期に介護保険を申請してほしい。もっと早くから在宅医療のことを患者に提案してほしい。
- がんの種類、臓器により異なるので、がん相談を一般的に行うは大変困難だと思う。
- 「がん」の一括りで、どこまで本人・家族にインフォームドコンセントして良いか。
- 拠点病院の相談員とその他の関連病院の相談員らで、意見交換の場ができるとよい。
- がん連携パスを利用しているが、今後徐々に地域ネットワークの中で共有出来ることの可能性も検討要。
- がん患者はインターネット等で得た知識を正しく評価する必要がある、がん相談支援センターは公平性を維持し特定の医療機関や治療に誘導しないようにしてほしい。
- がんは、まだ医療者のもので、患者が自分の病気として認知し、理解し、受け入れることができない。がん相談がその部分の手助けをしていただくことを希む。
- がんと診断されて、受け入れられない時の関わりは難しいが、重要な時期なのでしっかり関わってほしい。
- 緊急時の対応が拠点病院で可能かどうか不安な点がある。
- 相談員より長期入院は絶対に不可能と説明された患者から相談を受ける。
- がん治療が手近でなく高価であること。ビタミンC大量自費治療が有用なのか。

Q6 がん相談に関して課題・不満等を感じていることはありますか(自由記載より抜粋)

- 僻地にあるため、情報が患者へ伝わる量が少ない。相談する場所の有無も、相談していい事も、そもそも知らない。住んでいる環境で提供される医療、情報が違ってくるのがとても残念。
- がんに関する情報はインターネット等で入手しやすくなった半面、適切でない情報により検査や治療の機会を失っている方がいる。がん相談が出来る機会、場所がもっと地域に増えればいいと思う。
- 初動段階がもっとはっきり分かりやすく周知されるといいと思う。
- 情報を手に入れる方法が少ない。
- ホスピス治療を主にした施設が県南に欲しい。
- 近くに緩和ケア病棟、施設がまだない。療養施設では保険適用に制限があり在宅～入院サポートの体制がとりにくい。
- 特に末期の場合の問題として、本人、家族を含め統一した方向性が示されてない場合が多く困ったことが何度かあった。
- 高齢者のがん治療の場合、家族に治療の判断を任せられることがあるが、家族に知識と情報が不足であったため、予後、緩和への移行が難しい事がある。
- キーパーソンがいない方への対応。社会的アシストのあり方。
- 告知に関して悩んでいる。
- 治療費の問題は避けて通れない。最初の治療説明の時だけではなく、日頃から耳にされていると垣根は低くなると思う。
- 仕事が忙しい等で治療中断される方などに、どうして継続されないのか強く言えない。どうにか頑張ってもらいたいと思うが、どう対応していいか考えることがある。
- セカンドオピニオンの依頼があるときに病院選択に迷う。
- 食事や日常生活が行えない患者への指導を行っていきたい
- 治療法を示しても治療法の選択が出来ない人がいる。費用を心配する人が多い。年収等により助成額が異なるので明確な治療費が出せない。
- 患者は大病院じゃないと頼りないと考えている。末端医療機関も、その不満不安の解消に努力しなければならない。がん相談がその橋渡しとなってほしい。
- 心のサポートの重要性(仏教的物の見方)
- 実際の相談に訪れる人は何人か？熊本県下で何%か。その人数は多いと考えるか？がん相談支援センターの利用に積極的な医師と、そうでない医師がいるのはなぜか。
- かかりつけ医との早期からの連携。疾患より生活面の課題の共有。生きるための選択肢や自分の死生観と向き合えていない印象がある。医師に言い出しにくいことを拾ってほしい。
- 主治医の説明を十分理解出来ていない患者が多い。結局、説明が悪いと思われるので、がん専門医等の教育が必要。
- がん治療機関はセカンドオピニオンに対して充分患者に説明して欲しい。
- 在宅緩和ケアも選択肢の一つであることを周知していく必要がある。
- 複数科にまたがる場合、横のつながりが悪い事があったり、開業医と大学病院の連携の強化が必要。
- 連携の仕方が分からない。
- 若いがん患者の生活支援。
- 大学病院は特にがん患者が多いので、相談に応じれるように人員を増やして欲しい。
- 相談にのりたいが、外来、入院、老人ホーム施設対応に追われ時間がない。相談に保険点数がつかない。
- 地域柄、がん治療、緩和ケアに関する専門的な職種(医師、看護師)が少ない。在宅も増えているので専門的な看護師の充実が必要。
- 医療相談員の人員配置が少ない場合、入院支援中心の業務になりがち。
- がんは個人によって症状や加療方針は異なる。他の人と同じようには難しいように思う。